

## フレイルの高血圧患者にも降圧療法の効果がみられる

高齢者に対する降圧療法には効果が認められているが、ランダム化比較試験ではフレイルの認められる高血圧患者は対象から除外されており、これらの患者でも同様の効果が得られるのかについて検討した。

イタリアのロンバルディア州で2011~2012年に3剤以上の降圧薬を処方されていた65歳以上の高齢者（平均年齢76歳）1,283,602人を7年間追跡し、死亡との関連を調べた。試験開始時の健康状態を評価し、良好、中程度、不良、極めて不良の4群に分けた。分析の結果、7年間での死亡率は健康状態が良好な群では16%、極めて不良な群では64%であった。服薬の順守率が低い患者（降圧薬の処方日数が観察期間の25%未満）と高い患者（同75%以上）の死亡率を比較すると、服薬順守率の高い患者のほうが低い患者より死亡率が低く、健康状態の良好な群では44%低下し、中等度の群では43%低下、不良の群では40%低下、極めて不良の群では33%となり、試験開始時の健康状態が不良であるほど服薬順守による死亡リスクの低下率が少なかった。心臓血管病による死亡に限定した場合も同様の関連がみられた。

したがって、フレイルの認められる高齢高血圧患者においても、降圧療法により死亡リスクが低減することが示された。ただし、その便益は健康状態の良好な人に比べると小さかった。

出典：Hypertension. 2020 Aug; 76(2): 442-449.